

出題分析			
試験時間	120分	配点	学部により異なる
		大問数	3題
分量（昨年比較）	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化（昨年比較）	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
<p>【概評】</p> <p>3つの大問の出題で各400字以内、合計1,200字以内である。今年度の全小問数は10で、昨年度と変わらない。解答の冒頭で該当国名を答える小問が1問あるが、すべて論述問題である。また昨年度同様、指定語句を用いる問題はない。10小問中1問は解答用紙1行のみの25字以内で解答するものであり、しばらく見られなかった。図表類の使用は、昨年度はグラフ4点、統計表3点の計7点であったが、今年度はⅠでグラフが1点、Ⅱで統計表が2点、Ⅲでグラフが1点の計4点と減った。また昨年度使用されていた地図や概念図は見られない。特定の地域のテーマから考察させ論じさせる出題は変わらず、広範な地理や社会事象の知識を背景に指定字数以内にまとめる力が求められている。</p> <p>※配点は、商学部は125点、経済学部は160点、法学部は170点、社会学部は230点。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	オランダの養豚業の変遷	オランダの養豚業の変遷についての問題。問1は、図I-1からヨーロッパ連合(EU)の共通農業政策の課徴金支払い免除による結果を指摘し、GATTのウルグアイラウンドに触れる。問2は、オランダの養豚による国内の問題について窒素の排出を指摘し、国外の問題として感染症など国境を越えて広がる問題に触れて解答したい。問3は、図I-1の変化の傾向を説明し、環境問題への対応として肥育経営から子取り経営に転換したことに言及したい。	やや難

設問別講評			
II	都市と生活環境、交通手段	日本とアメリカ合衆国を例とした、交通を軸とした都市の変遷や課題、生活環境に関する問題。問1は、現代日本において歩行者にとって不便な道路が存在する理由を、都市の発展や自動車の普及、それによる車道と歩道の分離に即して解答する。問2は、文章中の下線部について、人が歩く歩行者の世界から自動車に中心の世界に変化したことに着目して答える。問3は、ラスヴェガスの発展背景を述べ、持続可能性について書く。問4は、ニューヨーク市とワシントンD.C.の生活環境の違いを、表II-1、表II-2の特徴的数値や交通手段の利用を含めて説明する。	やや難
III	国家間の人の移動と資金の移動	移民の送り出しや外国に移住した移民による発展途上国への送金についての問題。問1では一個人が外国から本国の相手に送金することが、その国の社会経済の発展を下支えしていることに触れる。問2は外国への人的資本の送り出しが、その国の経済発展に対して良い面と悪い面両方を持つことを説明する問題である。問3は、図III-1のA国を指摘し、他の国を一つ選び、A国と比較しながら、移民の送り出しに至った背景の共通点と相違点を説明する。	標準

合格のための学習法

一橋大学の研究分野の特徴が出題に表れており、都市や産業、交通について出題される傾向にある。今年度出題された図表類では2020年代まで触れられていることから、現在までの社会情勢の変化についても出題されるため、日々触れるニュースから地域の課題やその背景を探究する姿勢が要求される。対策としては、図表中で解答に必要な箇所を的確にとらえることを日頃から意識したい。一橋大学の過去の出題以外に、東京大学、京都大学など他の国立大学の二次試験の過去の出題についても研究するとよい。統計問題は必出であるので、統計書を用いて各種統計に精通しておきたい。